

C-57 大知高厚郡祁村における被服と生活(オノ報)

奈良女大家政 〇片山陽次郎 中川早苗 興手正代

目的 生活のなかに入られ、生活環境の中で使用される被服は、直接あるいは間接に生活のあり方に影響をおよぼしていく。本研究は被服デザインの研究の一つの方法として、奈良高厚郡祁村の野外踏査で収集した資料をもとに、うつりかわる生活環境の変化に対応した被服と生活の実態をとらえるとともに、あわせて、人々の被服に対する考え方の変化をさぐろうとするものである。

方法 現地踏査を昭和52年7月21日～31日に実施し、面接調査及び実態観學を行った。なお、現地踏査に先だつて、村役場、教育委員会等で、村史、統計的資料等の関連資料によつて、村の社会、生活の概要の把握を行った。

結果 農村において着装の主要を占める野良着(作業衣)を中心に被服の変容について観察すれば、わが国の農村各地に見られる如く、伝統的な衣服をここでももっていた。しかし、現在は都市における工場での作業衣とさして差らない衣服を着装しているのが実態である。

被服の管理的側面は現在でも主婦の仕事の一つであるが、昭和初期までは自給自足によつて賄われていたものが、現在、主婦が何らかの取業をもつという主婦の仕事の内容の変化にしたがつて上記の野良着に見られるように、既製服に依存する形態に変化した。被服生活の変容が生活環境と農業形態の変化におうところが大きいと考えられる。また、被服に対する価値観の変化が、自家縫製から既製品への移行、被服としての便利性の向上に伴い、精神的な価値の希薄化を促す要因ともうかがえた。